

<テーマ>

災害に備える

<ねらい>

日本の災害医療体制は阪神淡路大震災での教訓を糧に構築され、災害拠点病院の設置やDMAT(災害派遣医療チーム)が整備された。その後も、東日本大震災、熊本地震、そして昨年 of 能登半島地震と経験し、今も復興と再生が続いている。近年では災害に対し行政だけでなく、国民や企業・各種団体が積極的に被災地を支援する機運が高まり、発災時の自助・共助・公助に関する国民意識は明らかに向上している。

日臨技も発災時に迅速な被災地支援を実現すべく、全国の会員施設へ災害対策の進捗を啓発するとともに、各都道府県技師会と行政との連携強化を推進している。

臨床検査は、医療機関において患者状態の管理に必須であり、発災時でも重要性は変わらない。臨床検査機能をどこまで持続するのか、人的支援や避難所など医療機関以外での活動、会員支援として被災住宅などのへの支援など、災害に備えて取り組むべき事項は多い。

また、さまざまな組織がターゲットとなるサイバー攻撃は増加傾向にあり、医療機が被害にあうケースも報告されている。患者の命を扱う医療機関にとってサイバー攻撃対策は、災害に備えると言っても過言ではない。

今回の支部シンポジウムでは、「能登半島地震の経験から学び、南海トラフに生かす」を根幹に、サイバー攻撃対策も交えた学びのあるシンポジウムにしたいと考えております。候補のテーマによっては、施設というよりは県技師会としての視点でお話していただきたいものも含まれています。

司会 南部 重一 (富山県厚生農業協同組合連合会 高岡病院)

直田 健太郎 (聖隷浜松病院)

<講演内容>

1. 能登半島地震の経験から学び、南海トラフに生かす
演者：滝野 豊 (北陸大学 医療保健学部)
2. 臨床検査技師 DMAT 隊員から学ぶ「我々に出来ること」
演者：鈴木 雅大 (刈谷豊田総合病院 臨床検査・病理技術科)
3. 実災害から学ぶ、支援する側の心得
演者：横田 綾 (国立大学法人富山大学附属病院 検査・輸血細胞治療部)
4. 「被災しました支援してください」と言われたときに
演者：久留島 幸路 (磐田市立総合病院 臨床検査技術科)
5. サイバー攻撃に備えた IT-BCP の構築 - 中部圏支部 6 県からみえる現状と課題 -
演者：石田 秀和 (岐阜大学医学部附属病院 検査部)
6. BCP のブラッシュアップ ～ 継続した検査提供を目指して ～
演者：佐藤 翼 (三重県立総合医療センター 中央検査部)